

第9回日本公衆衛生看護学会学術集会在開催されました

結核研究所対策支援部保健看護学科

標記学会が、2020年12月25日～2021年1月24日までオンライン開催された（本学会は、公衆衛生看護の学術的発展と、研究・教育及び活動の向上と推進をめざして2013年から開催）。本学会のメインテーマは、「公衆衛生看護の責任と実践～誰も取り残されない『社会的包摂』の実現をめざして～」である。開催地は東京であったが、新型コロナウイルス感染症の世界流行という予想外の事態に様々な活動がオンラインに切り替わり、その影響を踏まえた学術集会在企画された。学術集会在会長は大木幸子氏、同副会長は河西あかね氏で両氏ともに東京都の保健師の中心となって活動してこられた方々で、オンライン開催であっても、同じテーマについて思考している仲間に思いを馳せながら、気軽に参加できるような気配りがされていた。一般演題やワークショップにはそれぞれに「いいね」「質問・

コメント」のボタンが用意された。

メインプログラムは1月9日（土）10（日）で、特別企画として、「新型コロナウイルス感染症対策をめぐる保健師の活動」について現場の保健所保健師から発表があった。一般演題はオンデマンド配信となっており、1月24日まで聴講が可能だった。35セッションあり、感染症群については、結核に関する演題が4題、新型コロナウイルスに関する演題が1題であった。当研究所からは、「外国人技能実習生の結核に関する現状と課題」「外国出生結核患者への継続的な療養支援～外国人相談室の10年の取組から考察する」について報告がなされた。ハンセン病企画展において国立ハンセン病資料館バーチャルツアーに参加した。画面を通して見どころがズームアップされ、解説の相乗効果に見応えがあった。👏